

広報 みはま



TOPICS

- 佐柿国吉城築城450年
- 美浜発電所の状況
- 美浜町給食センター完成
- 議会ニュース
- 「第3次美浜町行財政改革大綱」策定(後編)

2006.9

佐柿国吉城築城450年記念 ～国吉城今昔物語～

今年、町内佐柿に残る町指定史跡の国吉城が築かれて450年目の年に当たります。地元佐柿区や町では、これを記念したイベントや催しを開催しています。

9月30日（土）には、「国吉城まつり～450年の宴～」を盛大に開催します。皆さんも、歴史浪漫を体感できるこのイベントに、スタッフとして、またお客様として、ぜひご参加ください。

〈中央の山頂付近が国吉城本丸跡地〉



山頂の本丸跡地に立つ国吉城址碑

若狭国東方の堅城

国吉城は、若狭守護大名武田氏の重臣、粟屋越中守勝久あわやえちゅうのかみかつひさ こうじが弘治2年（1556年）に築いた山城で、永禄6年（1563年）からの数年間、攻め寄せる越前朝倉氏の軍勢を相手に壮絶な籠城戦ろうじょうせんを繰り広げ、勝久の武勇ぶむとを天下に轟かせました。麓の佐柿区は、国吉城の城下町として開かれ、江戸時代は丹後街道の宿場町として繁栄しました。

佐柿区は現在も、当時の歴史的景観と自然の情緒にあふれた町並みを色濃く残しています。

信長、秀吉、家康が天下へ飛躍した、金ヶ崎攻め出陣の城

元亀元年（1570年）4月、織田信長による越前攻めが始まりました。この時、織田方の最前線の城として、越前攻めの戦略が練られたのが、国吉城です。

同年4月20日、越前朝倉氏を攻めるため、京を出陣した織田・徳川連合軍は、近江国に軍を進め、高島郡田中、若狭国熊川を経て、同月23日、国吉城に入りました。城主の粟屋勝久は、信長勢を倉見峠まで出迎えたといえます。

信長は国吉城に滞在して越前攻めの戦略を練り、同月25日、越前国敦賀郡に攻め入り、翌26日、金ヶ崎・天筒山てづつやまの両城を1日で攻め落とし、破竹の勢いで侵攻しましたが、妹の嫁ぎ先である近江浅井氏の突然の裏切りによって、信長勢は撤退を余儀なくされました。しかし、木下藤吉郎秀吉（後の豊臣秀吉）の必死の殿戦しんがりで無事退却した信長は、6月の近江国姉川の戦いで浅井・朝倉軍を打ち破ったのです。以後、信長の天下統一が一気に進んでいきました。

殿戦…部隊の最後尾を守りながら撤退する戦い

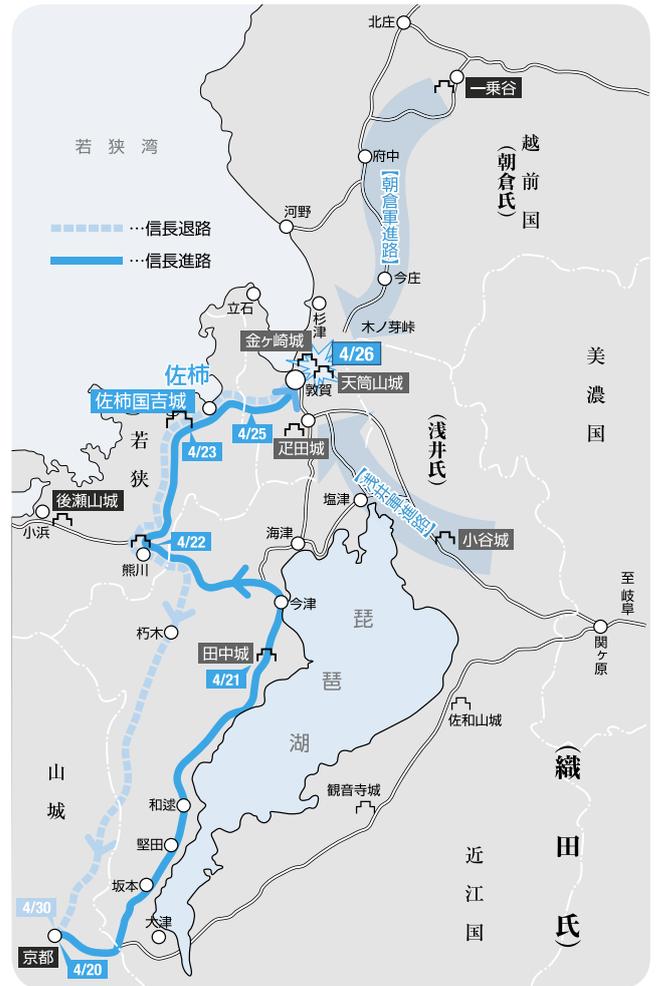
移り変わる国吉城主と城・町

天正10年（1582年）6月、明智光秀の謀反によって、織田信長が京都本能寺に討たれると、時代は大きく変化していきます。天正11年（1583年）の賤ヶ岳の合戦の時、国吉城主粟屋勝久は、羽柴秀吉に味方して、若狭国と国吉城の防備を担っていました。戦いは羽柴方の勝利でした。合戦後、粟屋氏に代わって、秀吉直臣きむらひたちのすけさだみつの木村常陸介定光が国吉城主となり、新たに佐柿の城下町を作りました。その後、若狭国の領主は浅野氏、木下氏、関ヶ原の戦いの後には京極氏と、めまぐるしく変わっていき、国吉城には城代が派遣されました。

城代…城主に代わって城を守る部将



本丸跡から町(耳地区)を望む



織田信長勢越前朝倉氏攻め
侵略図「信長公記」より

国吉城の廃城と江戸時代の佐柿

国吉城がいつ壊されたのか…、それを示す記録は残されていませんが、おそらく、元和元年（1615年）、大坂夏の陣で豊臣氏が滅亡し、戦国の世が終わりを告げた頃、幕府の命令で壊されたとみられます（一国一城令）。



現在も情緒豊かな佐柿の町並み



佐柿町奉行所跡

寛永11年（1634年）、若狭国の領主として、徳川家譜代の酒井忠勝が小浜城に入ると、佐柿や敦賀に奉行所が設置されました。いずれも、昔の城跡です。国吉城は、佐柿町奉行所として新たな命が吹き込まれ、以降300年弱、三方郡の中心地として佐柿の町とともに繁栄しました。

未来へ残し伝える国吉城

現在、美浜町では国吉城址を史跡公園として保存・活用を図るため、国吉城の元の姿を解明することを目的に、平成12年度から発掘調査を実施しています。

10年前まで、国吉城址には何もお城らしい痕跡は見られず、人工的な平場が段々状に残るだけでした。ところが、発掘調査によって、国吉城は戦国時代の土造りの城から、石垣造りの立派な城に作り変えられたことが明らかになりました。天守閣が存在した可能性もあります。時代の節目や城主の交替の度に作り変えられたようです。

このような成果を後世に伝えるため、また、国吉城址を訪れる見学者に、城をもっとよく知ってもらうため、平成15年度から、国吉城址史跡公園

(仮称)などの整備にも取り組んでいます。発掘調査で発見された遺構も整備・復元して、重要な遺跡として後世に残すことを計画しています。

皆さんもぜひ、郷土の誇る歴史遺産である国吉城址に来て、見て、触れて、歴史の息吹を体感してください。



国吉城址史跡公園（仮称）整備イメージ図

国吉城まつり ～450年の宴～

国吉城築城450年の今年、歴史情緒漂う佐柿区を舞台に体験参加型のさまざまなイベントを開催します。

歴史浪漫を体感し、450年の時空を超えて悠久の昔に思いをはせる。そんなゆったりとした時の流れの中で、ひとときの癒しの「宴」を楽しんでみませんか？皆さんのご参加をお待ちしています。

【日時】 9月30日（土） 午前10時～午後8時

【会場】 佐柿区一円および国吉城址

【内容】

●ステージイベント…会場特設ステージで開催

手作り甲冑コンクール、ステージ出し物（各種団体）
火縄銃演武、幸若舞上演

●街道イベント…佐柿区内で開催

グラウンドゴルフ、騎馬武者行列、城下町散策

●城山イベント…国吉城址で開催

城山登山、弓打ち・投石体験
ビンゴ、ルーレット大会

●その他

城山ライトアップ
模擬店（飲食・物産販売）



※お問い合わせ先 町教育委員会事務局 文化財保護・町誌編纂室（担当・大野） ☎32-0027

美浜発電所の状況



今回の報告では、7月15日から8月16日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

美浜1号機

運転中 (平成17年12月6日～)

1号機の次回定期検査開始は、当初の計画では8月下旬に予定されていましたが、3号機の試験起動に向けた作業に万全を期すため、11月上旬に変更されました。

美浜2号機

運転中 (平成18年6月22日～)

美浜3号機

第21回定期検査中

(平成16年8月14日～)

9月下旬の試験的なプラントの起動に向けて、7月29日より燃料装荷が始められ、8月11日には原子炉容器の組立て作業が完了しています。現在は、各種の検査や点検が慎重に進められています。

試験的なプラントの起動は、事故後長期間停止していることを踏まえ、発電をした状態で設備や機器の健全性を確認するためのものであり、その後一旦停止させ、プラント全体の点検が行われることになっていきます。

なお、その後の本格運転再開までの進め方については、停止後の点検結果等を踏まえ、改めて検討、決定されます。

高経年化対策

美浜発電所3号機は、本年12月1日をもって、営業運転開始から30年を迎えます。関西電力(株)では、原子炉施設の安全を確保する上で重要な機器および構造物について、60年間の運転期間を仮定して、その間の使用における経年劣化を技術的に評価するとともに、その評価に基づく長期保全計画を高経年化技術評価等報告書として1月30日に国の原子力安全・保安院へ提出していただきました。(広報みはま3月号参照)

原子力安全・保安院では、立入

検査の実施や高経年化技術評価ワーキンググループからの専門的な意見の聴取、また、昨年末に制定された高経年化対策標準審査要領等に基づいて審査を行い、7月27日に、関西電力(株)の報告書の内容を妥当とする審査結果を原子力安全委員会に報告するとともに公表しました。

町では、7月28日に町議会で、8月2日には原子力環境安全監視委員会、関西電力(株)から高経年化技術評価等の内容について説明を求めるとともに、国からは原子力安全・保安院の青山審議官他を招いて審査結果についての説明を求めました。

3号機の高経年化対策については、今後とも国に対して厳格な対応を求めていきます。

●高経年化

原子力発電所では、機能や性能の状態を表すこととは別として年月が経つことの「経年」に長いという意味の「高」を加えて「高経年化」といっています。時間の経過を示すものであって、「老朽化(古くなって役に立たなくなる)」とは違う意味です。

●高経年化対策

高経年化対策とは、安全第一を目的として、プラントの使用期間に関係なく一定の安全水準を確保するため、性能低下などの特徴を把握し、これに的確に対応した保守管理を行うことです。

●経年劣化事象への対応

経年的に性能の低下が生じる事象を「経年劣化事象」といいます。事業者は、法律により定められた技術基準を満足させるために、時間の経過とともに現れる性能低下の状況を適切に確認または予測をして、取替えなどの保守管理活動を実施します。しかし、プラントを長期間使用することで性能低下が予測を超えて発生する可能性が考えられます。

このような事象を「高経年化対策上着目すべき経年劣化事象」といい、この事象に的確に対応するために、監視の強化など現状の保守管理活動に追加して行われます。

